

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和6年1月1日（月）18:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：関広報官

<本日の報告事項>

○司会 では、ただいまより、本日1月1日16時6分以降に発生した地震による影響について、原子力規制庁から記者ブリーフィングを行います。

広報官の関より御説明いたします。

○関広報官 広報官の関でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、本日1月1日16時6分以降、断続的に石川県能登半島沖で地震が発生しております。それで、16時10分の地震が今のところ最大でございます。その地震においてはマグニチュード7.4、気象庁では石川県及び志賀原子力発電所が立地されている志賀町のほうで震度7を観測しているという状況でございます。

原子力規制委員会においては、石川県にある志賀原子力発電所、新潟県にある柏崎刈羽原子力発電所、それから、福井県にあります発電所、こちらは敦賀市にあります日本原子力発電敦賀発電所、それから、日本原子力研究開発機構が所有いたします高速増殖炉もんじゅ、それから、ふげん、また、福井県美浜町にあります美浜原子力発電所、高浜町にあります高浜原子力発電所、それから、おおい町にございます大飯原子力発電所を対象に重点的な情報収集対応を現在行っております。

これらの発電所につきましては、現在のところ、安全確保上重要な電源の確保ができております。また、使用済燃料プールの冷却についても行われていることを確認しております。

また、福井県の大飯原子力発電所、高浜発電所、これらの運転状態については変更がございません。運転を継続しているものについては、運転を継続しているという状況でございます。特に目立った異常のほうは、現在のところ、報告としては上がってきておりません。

また、周辺のモニタリングポストにつきましては、石川県の志賀原子力発電所の周辺のモニタリングポストで一部欠測状態のモニタリングポストが確認されておりますけれども、残っているモニタリングポストにおいては平常と同様の値であることを確認しております。このような状況から、外部への放射性物質の影響はないと考えております。

その他発電所についても、モニタリングポストの状況については平常と同様な値でありまして、放射性物質の影響はないと考えております。

原子力規制委員会では、地震発生直後に警戒事態として職員が参集し、情報収集を行

っているところでございます。また、地震のありました周辺自治体、立地自治体とも連絡を取り合いながら、今後も情報収集、そして、今後もし状況が悪化した場合においても対応可能なよう、体制を整えているところでございます。

以上が主だったところの報告でございます。

その上で、細かい状況も幾つか入っておりますので、この場で御紹介させていただきます。

まず、北陸電力志賀原子力発電所についてでございます。

まず、外部電源については現在ある状況でありまして、外部電源により受電を行っているところでございます。

観測された地震加速度、これは16時10分の地震でございますけれども、ここの16時10分の時点での地震加速度については、地震加速度が336.4Gal、鉛直方向が329.9Galを観測しているという報告が上がってきております。

これにつきまして、志賀原子力発電所については、現在のところ、新規制基準を適用しているプラントではありませんので、認可している値は現状ないのですが、以前、経済産業省の原子力安全保安院時代にバックチェックということでの値というのがございまして、それを参考に申し上げますと、水平方向で600Gal、鉛直方向で405Galという値でバックチェックをしているという記録がございます。その辺りからすると、この加速度は下回っているというような状況でございます。

それから、志賀原子力発電所については、モニタリングポストについては現状異常はございません。

一方、発電所の状況につきましては、まず1号機の使用済燃料プールについて、スロッシングといいまして、地震が起きたことによって使用済燃料プールの水が一部プールの外側に出るといったような現象が確認されております。

また、それに伴いまして、使用済燃料プールを冷却するポンプが一時停止したということを確認しております。このポンプにつきましては、止まった時間については正確な時間は把握できておりませんが、16時49分に再起動したという情報が入っております。現時点においては、1号機、2号機とも使用済燃料プールの冷却というのはできている状況でございます。

それから、もう一つ入っている情報といたしましては、外部電源については1系統は受電できていることを確認できております。ただ、地震の際に、一時、変圧器付近で爆発したような音と焦げ臭い臭いがあったというような情報が入っております。これについては、その後、発電所の職員が現場の状況を確認いたしまして、17時半時点において火が出ていないことを確認しております。本件については公設消防に連絡をしたということでございます。

また、1号機起動変圧器付近で油漏れがあったということを確認しております。現時点では、この油漏れによる影響によって機能に影響があるかどうかというような情報まで

は入ってきておりません。

現時点においては、志賀原子力発電所の外部電源は必要な電源は取れているということが確認できております。

以上が志賀原子力発電所の追加情報でございます。

また、柏崎刈羽原子力発電所でございますけれども、現時点においては設備異常のほうはないという報告が上がっております。

また、使用済燃料プールのスロッシングにつきましては、1号機から6号機までは際立った被水はないということを事業者が確認したという報告が来ております。7号機においては、現在東京電力が確認をしているという状況です。

また、柏崎刈羽原子力発電所構内の固体廃棄物貯蔵庫のほうで火災感知器が火災という情報を示して動作をしております。その後、東京電力の職員、また、公設消防の職員が現場のほうを確認いたしまして、火が出ていなかった、これは誤報ではないかということで確認が取れているという情報が入ってきております。

プラントに関する追加情報は以上でございます。

また、冒頭、私のほうからモニタリングポストが一部欠測しているという情報をお話しいたしましたけれども、具体的な台数については、自治体の所有しているモニタリングポストの13台が今、こちらから値が読めないような状況になってきております。主にこの13台は志賀原子力発電所よりも北側、能登半島の上側のほうですね。輪島までは行かないのですけれども、どちらかと言えば発電所から見て北側の方向のモニタリングポスト13台が欠測している状況でございます。

そのほかのモニタリングポストについては現状測定ができていて、異常な値は出てきておりません。現状、この状況であれば、初動状態を確認する上では問題ない、支障がない程度の欠測ではないかと考えております。

このモニタリングポストの復旧方法については、現在調整を行っているというところでございます。

現時点での情報は以上でございますけれども、現時点においても現地のほうは地震が散発的に発生しているような状況でございますので、また新しい情報等が入りましたら、またこの場なりTwitter等を用いながら、随時お知らせをしてみたいと思います。

私からの説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 では、御質問をお受けいたします。御質問のある方は挙手していただいて、会社名の後にお名前をおっしゃってから御質問をお願いいたします。

では、前列の方、お願いいたします。

○記者 時事通信のカンダです。

志賀原発の外部電源の関係なのですが、1系統受電できているということなのですが、

これは全部で何系統のうち1系統ということなのか、それとも1系統受電できているのは確認されていて、ほかの系統がどうなっているかは情報がないということなのでしょう。

○関広報官 現状受電できているのが、27万5000V（ボルト）系のほうから受電をしているという情報が入っております。このところはまた後でしっかり確認はしたいと思えますけれども、大体2回線来ているというような形になりますので、とにかくそちらのほうから今電源が取れているということでございます。

もう一つ、もう少し大きい50万V系の送電線がもう一系統来ていまして、今、そちらのほうからは受電をしていないと聞いております。ただ、それが今後使えるかどうかであるとか、そういう情報についてはこれから整理をして、使用可否については情報収集していくものだと考えております。

○記者 それから、火花が出たという変圧器なのですけれども、これは受電側の変圧器で1、2号機どちらかみたいなの、そういうのもあるのでしょうか。

○関広報官 現時点においてはそこの情報までは入っておりません。ただ、現状、27万5000V系から受電をしているということでございますので、何かしら50万V系に異常があったのかどうかというところを今調査しているという状況だと思います。まだ確定情報はありません。

○記者 あと、津波の警報の対象区域だと思うのですが、現状、津波の到達状況みたいなことについては何か情報はないのでしょうか。

○関広報官 現状のやり取りまでを聞いておりますと、具体的に敷地まで上がってきたかどうかとか、そういう情報は取れておりません。ただ、どちらかといえば、この場合、事業者の職員のほうも大津波警報が出ている場合はむやみに外に出ないというのが基本的な措置でございますので、そのところ、まず安全を確保した上で、出られるかどうかということも含めて判断をしていくものだと思います。現時点において具体的な被害等の情報は入っておりません。ただ、現状において情報収集活動に特に支障を与えているというような状況もございませんので、今動く上ではそんなに支障にはなっていないのではないかと考えております。

○司会 では、こちらの後列の方、お願いいたします。

○記者 共同通信のウヱムラです。

スロッシングの話なのですけれども、スロッシングした後の水がどういう扱いになっているか、現状どういう状況になっているかという情報があれば教えてください。

○関広報官 現時点においては、床面に出ているものがあったということまでは聞いておりますが、その後処理をしたとか、そういうような情報まで入ってきておりません。

○記者 外部に漏れ出たみたいな情報も特にはない。

○関広報官 特にはございません。

○記者 モニタリングポストの13台の欠損の件なのですけれども、現時点で何か考えられる要因などはあるのでしょうか。

○関広報官 まだ調査中でございます。

○記者 具体的に場所はどこの13台かというのは把握できているけれども、どういう状況で欠損しているかが分かっていないということ。

○関広報官 具体的にどの局がというのは、13局というのは上がってきておりますので、ポストの局名と私たちは呼んでいるのですけれども、その具体的な局名については後ほど資料でお渡ししたいと思います。

また、原因等については、現状においては分からない状況です。まずは復旧させる。まず原因を確かめるよりかは、まずは復旧させること、あるいは代替の手段を用いて計測ができるようにする。そちらのほうがまずは先ではないかと考えております。

○記者 分かりました。

それから、今回、立地自治体での震度7の揺れということなのですけれども、この立地自治体での震度7の観測というのは、1F事故以来ということになるのですか。それとも、結構過去に例はあるのでしょうか。

○関広報官 すみません。すぐ即答できる持ち合わせはありませんので、そういう系統、過去物についてはまた少し落ち着いてからお知らせをさせていただきます。まずは現状の把握をするというところに注力をして、私たちのほうは情報収集活動を行っております。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 では、あちらの方、お願いいたします。

○記者 フジテレビのヒデと申します。よろしく申し上げます。

先ほどのスロッシングについてなのですけれども、これは現状問題なしと言い切って大丈夫なのか、その点について1点確認したいです。

○関広報官 今までも地震においてスロッシングで水が建屋の中で床上にこぼれるというようなことは、過去にも例としてはございます。それで、現状においては、発電所外のモニタリングポスト等において特に上昇した値はない。また、排水系についても特に異常はないということからすると、一部水が飛散しているような状況ではありますけれども、住民の皆様に放射性物質の影響を与えるようなことはないと考えております。

○記者 ありがとうございます。

○司会 では、お願いいたします。

○記者 読売新聞のマエムラといいます。よろしく申し上げます。

一応確認なのですけれども、受電している外部電源というのは合計で何系統あるということなのですか。

○関広報官 正確な数は、この後系統図等をお示ししたいと思います。私が現状承知して

いる限りにおいては、50万Vの系列のものと27万V系列のもの、少なくとも2つあるという認識であります。そのほかにももしかしたらもう少し小さい電圧のものがあるかもしれません。そのところはまた改めさせていただきます。ただ、少なくとも50万系列のものと27万5000V系列、2系統あるというのは確認できております。

○記者 そのうちの27万5000のほうが生きてはいるので、特に問題はないという状況で構わないですか。

○関広報官 はい。

○記者 分かりました。

あと、使用済燃料プールの一時停止なのですけれども、これはあれですかね。どのぐらいの時間停止していたかというのは分からないものでいいのですか。

○関広報官 時間が何分間という形では分かっておりませんが、16時49分に再起動しております。これが16時6分の地震でトリップしたのか、16時10分でしたのかというのは、まだ情報が取れてきておりません。そうすると、大体30分から40分ぐらいではないかと思えます。

また、こういう使用済燃料プールの冷却ポンプについては、地震においては止まるということはよくあります。どちらかといえば、動かし続けてポンプ自体を壊してしまうよりは、一度止めて、自動的に止まって、地震が収まった後に再起動する。それによって最終的な冷却は確保できるというほうを取るというのが一般的な考え方でございます。

○記者 分かりました。

そうすると、今、30分、40分ぐらい停止した中で、温度の上昇幅としてはどのくらいとか、そういうデータはありますか。

○関広報官 まだ温度も正確な値としては来ておりません。ただ、しかしながら、志賀原子力発電所については、東日本大震災の後で停止しております。そこから考えても、十数年止まっているというような状況でございますので、温度が「かっ」と上がるようなことというのは一般的にあまりないと考えております。

○記者 分かりました。

あと、モニタリングポストなのですけれども、13台欠損しているというのは敷地周辺で構わないのでしょうか。

○関広報官 これについては、まず北陸電力が所有しているものではありません。各自治体が所有しているモニタリングポストでございますので、この場合、石川県が持っているのかな。所有者については確認いたしますけれども、周辺自治体が持っているもの、県なりの行政機関が持っているものでございます。

それで、大体周辺の距離については、多分3キロから5キロ、10キロ圏ぐらいというような距離感です。逆に発電所の近いところは見れておりますので、そういう意味で、私、放射性物質は近くから遠くへ飛んできますので、近くが見れているので、体制には影響

ないのかなというような話をさせていただいたところです。距離についてはまた調べてお知らせもしたいと思います。

○記者 分かりました。

あと、最後なのですけれども、規制庁のほうで見られていないというのは、ERC（原子力規制庁緊急時対応センター）のほうで確認できていないという理解でいいのですか。

○関広報官 そうですね。現地において動いているのか、あるいは現地においては結構停電も発生しているという情報を聞いております。停電が原因なのか、そういったような何が原因でということはまだ分からないという状況でございます。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はありますでしょうか。

では、どうぞ。

○記者 TBCテレビのタケモトと申します。

各原発での人的被害、けが人などの状況について情報は入っていますでしょうか。

○関広報官 各発電所とも人身災害があつて救急車で搬送されたとか、そういうような情報は現時点では入っておりません。

○記者 念のための確認です。各原発というのは、石川県、福井県、新潟県に所在するでしょうか。

○関広報官 所在する原子力発電所で結構でございます。

○記者 ありがとうございます。

○司会 向こうの方。

○記者 フジテレビのヒゲです。何度もすみません。

言葉の使い方の確認をしたいのですけれども、被水という言い方は越水という言い方でも大丈夫なのですか。視聴者が分かるように伝えたいなと思ひまして。

○関広報官 溢水、要は一般的なプールに入っているような水が地震で揺れることによってばさつと外に出てしまったようなことという表現で私は被水という言葉を使いました。溢水という言葉も正しいかと思ひます。

○記者 越水とかでも大丈夫なのですか。

○関広報官 そこは、国語辞典で最後は確認しないといけないので、私たちの言葉では越水という言葉はあまり使わないものなので。

○記者 では、溢水か被水かどちらかということですね。

○関広報官 そうですね。

○記者 すみません。ありがとうございます。

○関広報官 すみません。モニタリングポストの欠測しているものなのですけれども、今、情

報が確認が取れまして、欠測しているモニタリングポストは発電所から15キロ圏から30キロ圏内のもので、発電所の北側でございます。輪島市よりかは下側という位置関係でございます。なので、発電所から北側15キロまでにあるモニタリングポストについては、結構な数があるのですけれども、現状は見られている、確認できる状況でございます。

○司会 ほかはよろしいでしょうか。

どうぞ。

○記者 毎日新聞社のタカハシと申します。

これからまだ余震等の心配もあるかと思うのですけれども、規制庁さんのほうで今後心配されている点だとか、注視していく点があれば教えてください。

○関広報官 原子力規制庁といたしましては、まだ地震が続いている状況でございますので、まずは情報の収集に全力を挙げたいと考えております。現時点においては、安全上重要な機器への電源の確保、または動作状態、使用済燃料の冷却が行われておりますので、その部分について特段避難行動を取るとか、そういう必要性は私どもとしてはないと考えております。住民の皆様におかれましては、まずは地震に対して身の安全の確保をお願いしたいと思います。

また、原子力規制委員会、規制庁におきましては、この後も情報収集に努めてまいります。その上で何か問題があるようなことがございましたら、即時に対応する、皆様にお知らせする、こういうようなことを行っていきたいと考えております。

○記者 現状の情報収集の仕方として、内閣府だとかほかの関係機関とどういう連携を取られているのか教えてください。

○関広報官 ここで得られた情報については、官邸の連絡室のほうには随時連絡を行っております。また、官邸においての参集要員の中に原子力規制委員会の職員も入っておりますので、その体制の中で活動を続けていくことになると考えております。

○司会 ほかはよろしいでしょうか。

どうぞ。

○記者 NHKなのですが、冒頭、我々は間に合わなくて、冒頭発言された内容をもう一度お願いできますでしょうか。申し訳ありません。

○関広報官 分かりました。

それでは、改めまして申し上げます。

本日1月1日16時6分以降、断続的に石川県能登半島沖で地震が発生しております。そのうち、16時10分に発生した地震においては、気象庁において石川県及び原子力発電所が所在の志賀町において震度7を観測しております。

原子力規制委員会においては、石川県にある志賀原子力発電所、新潟県にあります柏崎刈羽原子力発電所、福井県にあります関西電力の美浜発電所、大飯発電所、高浜発電

所、日本原子力発電の敦賀発電所、原子力研究開発機構が所有する高速増殖炉もんじゅ、それから、ふげん、これらについて集中的に情報収集を行っております。

これらのプラントについては、現状、安全上重要な機器の電源の確保ができています。また、使用済燃料プールの冷却もできています。

また、周辺のモニタリングポストの状況につきましては、石川県志賀原子力発電所周辺において一部欠測しているモニタリングポストはございますけれども、周辺のモニタリングポストについては平常と同様の値を示しております。

これらの状況から、外部への放射性物質の影響はないと考えております。

原子力規制委員会では、地震発生直後に警戒事態として職員が参集し、情報収集活動を行っております。また、周辺自治体等とも連絡を取り合いながら、今後もし状況が悪化した場合においても対応可能なよう、体制を整えているところでございます。

現状においては、電源の確保、使用済燃料プールの冷却、それから、運転状態についても異常がないことから、外部への放射性物質の影響はないと考えております。

住民の皆様におかれましては、まずは地震に対して身の安全の確保を取っていただきたいと考えております。

また、原子力規制委員会、規制庁におきましては今後も情報収集活動を行いまして、問題がある場合については、適宜このような場所での会見等を通じて情報を発信してまいりたいと思います。また、周辺自治体とも連絡を取り合いながら、不測の事態においても対応可能なよう、体制を整えていきたいと考えております。

以上でございます。

○司会 ほかに質問はよろしいでしょうか。

では、記者ブリーフィングは以上といたします。ありがとうございました。

○関広報官 ありがとうございました。

○司会 今後のブリーフィングの予定は、決まり次第、Twitter等でお知らせいたします。

では、ありがとうございました。

○関広報官 ありがとうございました。